

## 平成30年度 全国コミュニティ・スクール連絡協議会 総会について(ご報告)

10月11日(木)、三笠市(HOTEL TAIKO)で全国の教育長(評議員)11名の参加のもと、「全国コミュニティ・スクール 連絡協議会総会」が開催され、以下の報告事項について事務局から説明するとともに、協議事項について決定しました。

### 報告事項(事務局から)

- (1) 会員の登録状況について
- (2) 平成29年度の活動・決算について

### 協議事項(評議員の賛成により、全て決定)

- (1) 役員人事 ※最終ページの役員・支部長及び評議員一覧参照

会 長	在田 正秀 (京都市教育長)	⇒	(再任)
副 会 長	佐々田 亨三 (由利本荘市教育長)	⇒	(再任)
会計監事	菅野 和良 (岡山市教育長)	⇒	(再任)
	山本 直俊 (春日市教育長)	⇒	(再任)
顧 問	鈴木 寛 (東京大学教授, 慶應義塾大学教授)		
	貝ノ瀬 滋 (文部科学省初等中等教育局視学委員, 東京都教育会会長)		
	生田 義久 (京都市教育委員会企画顧問, 京都市前教育長, 佛教大学教授)		

- (2) 活動方針

会報発行・HPの充実・情報交流等, コミュニティ・スクールの積極的な普及・啓発に向けた情報発信及び組織としての連携強化に努める。

- (3) 平成30年度の活動・予算

会費は前年度と同額(正会員2,000円, 賛助会員20,000円)

- (4) 平成31年度全国コミュニティ・スクール研究大会の開催地

開催地: 広島県府中市(府中市文化センター)

日 程: 平成31年8月2日(金)

なお, 本連絡協議会総会は大会前日に府中市にて開催予定。



総会の様子(佐々田副会長(由利本荘市教育長)挨拶)



総会にて役員・評議員の記念撮影

# 「2018年 全国コミュニティ・スクール研究大会in三笠」について

(主催:文部科学省, 全国コミュニティ・スクール連絡協議会, 三笠市教育委員会)

10月12日(金), 全国各地から500名を超える皆様にご参加いただき, 「地域の教育力を高め活用するコミュニティ・スクール」という大会テーマのもと, 「2018年 全国コミュニティ・スクール研究大会 in 三笠」を三笠市民会館, 三笠市公民館にて開催しましたので, 当日の様子をご報告いたします。

## 実践発表

### 第1分科会「コミュニティ・スクールの効果的な導入」



<発表者>

- ・士別市教育委員会
- ・上士幌町教育委員会
- ・栃木市教育委員会  
(太平中央小学校)

<コーディネーター>

- ・北海道科学大学  
教授 出口 寿久 氏

<主な論点>

- コミュニティ・スクールを導入する際, 新しく取り組みを始めることだけではなく, 既存の各種団体と繋がりながら, 共に活動を行う視点が大切である。また, 教育委員会も主体的に関わり導入に向けた支援を行うことが不可欠である。
- 共有して目標やビジョンに基づき, 具体的な活動についても熟議を行うことで, 各委員が当事者意識を持って参画していくことに繋がる。
- 学校教育と社会教育を繋ぐコーディネーターにとって, 働きやすい環境整備を進めることが大切である。

### 第2分科会「コミュニティ・スクールで校種間連携」



<発表者>

- ・安平町教育委員会
- ・中標津町立計根別学園
- ・久喜市立太東中学校

<コーディネーター>

- ・小樽市立稲穂小学校  
校長 田中 賢一 氏

<主な論点>

- コミュニティ・スクールは地域づくりの一環である。
- 学校と地域の情報共有が進むことで, 連携教育の観点から, 連携・協働の体制づくりへと発展させることができる。
- 学校のためではなく, 子供たちの健全育成のためにすべての取り組みがあるという共通認識を持つことが大切である。
- 地域と触れ合う機会の少ない中学生にとって, 地域協働活動は, 地域と触れあう貴重な機会である。

### 第3分科会「コミュニティ・スクールで広がる子どもの未来」



<発表者>

- ・三笠市立三笠中学校
- ・光市教育研究会事務部会
- ・春日市教育委員会

<コーディネーター>

- ・札幌大学客員教授  
中田 美知子 氏

<主な論点>

- 学校運営協議会の充実を図るうえで, 校内全体を俯瞰して取り組むことができる事務職員の果たす役割は大きい。特に校内外をつなぐマネジメントや, 広報面等において, 活躍の場がある。
- 地域と連携したカリキュラムを設計する際には, 4つの視点「地域を生かす」「地域で学ぶ」「地域に還す」「地域と学ぶ」を含めることが大切である。

### 第4分科会「高校・特別支援学校におけるコミュニティ・スクール」



<発表者>

- ・北海道寿都高等学校
- ・熊本県教育庁
- ・京都市立西総合支援学校

<コーディネーター>

- ・高知県黒潮町教育委員会  
教育長 畦地 和也 氏

<主な論点>

- 各委員を通じて, 生徒と社会との接点を作ることができる。
- 地域防災計画の中に学校の位置づけをはっきりしてもらうことが大切である。また, 災害の時だけでなく, 普段から顔と顔の見える関係を築いておくことが重要である。
- 小中高合同の避難訓練の実施が増えたケースもある。

## 基調講演(東京大学大学院教育学研究科教授 秋田 喜代美 氏) テーマ:「子どもたちが創る地域の未来～質の高い学びとコミュニティ～」

秋田教授から次のような論点で講演いただき、参加者にとっては、今後コミュニティ・スクールを進めていく上で必要なポイントを学ぶ貴重な機会となりました。

- ・『社会に開かれた教育課程』を実現するには、地域の方々の支援のもと、『地域社会と出会う』『地域社会を知る』『地域社会で生きている』ことを、子供たちが実感できる活動が必要不可欠である。
- ・それら活動の中で感じた課題について、子供たち自らが考えることが大切である。
- ・子供たちがこれからの地域を創ることにつながる。



## パネルディスカッション テーマ:地域の未来を創る子どもを育むコミュニティ・スクール

コーディネーター: 文部科学省初等中等教育局視学委員 貝ノ瀬 滋 氏

パネリスト: 占冠村立占冠中央小学校長 森野 憲仁 氏, 三笠市山崎ワイナリー 山崎 太地 氏  
山口市教育委員会地域連携教育アドバイザー 長尾 彰 氏, ゆめ☆まなびネット学校支援コーディネーター 大谷 裕美子 氏



【パネリストの皆さんの主なご意見】

- これからの子供たちに必要な力は非認知能力であり、学校・家庭・地域が「関わって」、「重なり合う」ことが大切。コミュニティ・スクールの取り組みは、子供たちの非認知能力を育成し、自己肯定感の高さにもつながる。
- 自ら経験・体験したことは、子供たちの心に残る。
- コミュニティ・スクールを通じて、各種団体の横の繋がりが増えると、更なる協働活動の発展につながる。
- ふるさとで仕事をする楽しさを伝えることも大切である。
- たくさんのお会いがあるということをお子たちにも実感させていかないとけない。

### 参加者からの声

- コミュニティ・スクールを導入するだけでなく、子供の成長に責任を持つためのツールとしてどう生かすのかを分科会を通して理解することができました。
- 「できることからやる」など、コミュニティ・スクール導入、推進に関しての不安が小さくなりました。

## 三笠市教育委員会 永田 徹 教育長からのメッセージ

昨年10月12日、全国各地から500名を超える皆様にご参加いただき、北海道で初めてとなる2018全国コミュニティ・スクール研究大会が当市で無事に開催できましたことは、文部科学省、全国コミュニティ・スクール連絡協議会、北海道教育委員会等関係各位の皆様のご尽力の賜であり改めて感謝申し上げます。

さて、今回の研究大会を当市で開催した主な目的は、当市の取り組みを全国に発信するとともに、全国の先進地の取り組みを集積することにより、当市のこれまでの取り組みを検証するとともに、今後の取り組みを更に発展させていくことでした。

当市におけるコミュニティ・スクールの取り組みは、市民の皆さんにあまり認知されていないことが課題の一つとなっていますので、本研究大会の開催を契機として、一人でも多くの方にご理解、そして、学校運営に参画していただき、地域とともにある学校づくりを更に推進して参りたいと思います。

末筆となりますが、皆様方の益々のご健勝を祈念申し上げ、挨拶とさせていただきます。



# 平成30年度 役員・支部長及び評議員紹介(平成30年10月11日時点)

## 1 役員

会長	在田 正秀	(京都市教育長)
副会長	佐々田 亨三	(秋田県由利本荘市教育長)
会計監事	菅野 和良	(岡山市教育長)
会計監事	山本 直俊	(福岡県春日市教育長)
顧問	鈴木 寛	(東京大学教授, 慶應義塾大学教授)
顧問	貝ノ瀬 滋	(文部科学省初等中等教育局視学委員, 東京都教育会会長)
顧問	生田 義久	(京都市教育委員会企画顧問, 京都市前教育長, 佛科大学教授)

## 2 評議員(正会員のうちの教育長) ※氏名の前に◎印は支部長

支部	都道府県名	教育委員会	教育長
1	北海道	北広島市	◎ 吉田 孝志
2		三笠市	永田 徹
3		寿都町	有田 千尋
4		東神楽町	水野 和男
5	岩手県	岩泉町	三上 潤
6		大槌町	伊藤 正治
7	秋田県	由利本荘市	◎ 佐々田 亨三
8		にかほ市	齋藤 光正
9	山形県	川西町	小野 庄士
10	福島県	三春町	高橋 正美
11		大玉村	佐藤 吉郎
12	群馬県	伊勢崎市	徳江 基行
13		高崎市	飯野 眞幸
14	埼玉県	新座市	金子 廣志
15		ふじみ野市	朝倉 孝
16		深谷市	小柳 光春
17		足立区	定野 司
18	東京都	世田谷区	堀 恵子
19		日野市	米田 裕治
20		三鷹市	◎ 高部 明夫
21		武蔵村山市	池谷 光二
22	神奈川県	開成町	井上 義文
23	新潟県	上越市	◎ 野澤 朗
24		湯沢町	島村 文男
25	長野県	山形村	根橋 範男
26	岐阜県	岐阜市	◎ 早川 三根夫
27		白川村	倉 嘉宏
28	三重県	津市	倉田 幸則
29	滋賀県	湖南市	谷口 茂雄
30	京都府	京都市	◎ 在田 正秀
31		精華町	太田 信之
32	大阪府	河内長野市	澤田 宗和
33	兵庫県	朝来市	千歳 誠一郎
34		宍粟市	西岡 章寿
35	和歌山県	新宮市	楠本 秀一

支部	都道府県名	教育委員会	教育長	
36	鳥取県	南部町	永江 多輝夫	
37		伯耆町	後藤 弥	
38	岡山県	岡山市	◎ 菅野 和良	
39		美咲町	柴原 靖彦	
40	広島県	尾道市	佐藤 昌弘	
41		府中市	平谷 昭彦	
42	中国	北広島町	池田 庄策	
43		岩国市	守山 敏晴	
44		下関市	児玉 典彦	
45		周南市	中馬 好行	
46		長門市	松浦 正彦	
47		光市	能美 龍文	
48		防府市	江山 稔	
49		美祢市	岡崎 堅次	
50		柳井市	桑原 眞	
51		山口市	藤本 孝治	
52	四国	周防大島町	西川 敏之	
53		徳島県	東みよし町	◎ 真鍋 孝之
54	九州・沖縄	飯塚市	西 大輔	
55		春日市	◎ 山本 直俊	
56		太宰府市	樋田 京子	
57		福岡県	福津市	柴田 幸尚
58			宇美町	山本 浩
59			大木町	平山 浩一
60			筑前町	入江 哲生
61		佐賀県	那珂川町	安川 正郷
62			嬉野市	杉崎 士郎
63		熊本県	鹿島市	江島 秀隆
64	佐賀市		東島 正明	
65	大分県	宇土市	太田 耕幸	
66		玉名市	池田 誠一	
67		高森町	佐藤 増夫	
68		氷川町	太田 篤洋	
69	鹿児島県	津久見市	平山 正雄	
70		豊後高田市	河野 潔	
71		玖珠町	秋吉 徹成	
72		南さつま市	北園 博之	

※澤田 宗和 氏(河内長野市)は、教育長職務代理者

- 顧問 3名
- 正会員 367名  
(うち評議員 72名)
- 特別会員 32名
- 賛助会員 2名
- 会員総数 404名

(事務局) 京都市教育委員会 生涯学習部 学校地域協働推進担当 TEL: (075) 251-0456  
〒604-8064 京都市中京区富小路通六角下る骨屋之町 549  
Email: gakkousidouka@edu.city.kyoto.jp